



教育厚生委員会 行政視察結果報告

令和7年10月23日(木)～24日(金) 1泊2日

小川多美子

東郷町【zoi】

「社会課題にとことん向き合うレストラン」をコンセプトに「ジビエ」の料理を提供しているレストランでした。「ジビエ」というイメージに抵抗があり箸が進まなかったのが嘘のように最後までおいしく戴くことが出来ました。

またここは障がいのある方の就労支援の場として運営しているとのこと。障がいがあると職業の選択肢は少なく、料理の道に進みたくても調理の仕事に就けない人が多い、さらに時給賃金が安く自立して暮らしていける環境では無い。

「障がいがあっても、味覚が優れていたり、農作物を丁寧に育てる鋭い観察力の才能を持った人もいます。障害があっても無くても、やり甲斐を持ち社会参加し、楽しく生きていける、誰もが自由に職業選択ができる社会を目指し、料理や接客が好き、自然や農業が好き、人に「ありがとう」と感謝される働き方を望む人たちとともに、

野生動物廃棄問題だけでなく、様々な環境問題、社会課題を解決しながらお客様に喜んでいただけるレストランにしたい」と抱負を語っていました。

障がい者をパートナーと言い、また B 型作業所で働く人たちの時給賃金が233円

の現在【zoi】では時給1,140円の賃金が支払われているようです。

オーナーの話を聞き従業員教育の良さを感じ同時に定着率もいいのではと思いました。

豊橋市八町小学校

国語と道徳以外の教科を英語で学ぶイマージョン教育

英語のコミュニケーション力を自分の長所として生かし、グローバル社会で活躍することが出来る子どもの育成を目指し、2019年より導入され、今年度の卒業生は1年生から6年間イマージョン教育コースを進んできた児童だそうです。「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」をテーマに、英語の習得自体が目的ではなく英語に親しむことを目的としているようです。

イマージョン教育のねらいは、社会の国際化に伴い、国際理解・国際交流の必要性が生じ、市内に居住している2万人以上の外国人に対し、「共生の心」をもった子どもの育成が必要になり、心豊かに生活する基盤として、英語を用いたコミュニケーション力

を必要とすることとしたようです。

八町小学校のイマージン教育とは、外国語を手段として言語以外の教科を学ぶ教育方法、国語と道徳以外の教科領域に於いて英語を用いて学び、楽しいという喜びを感じ、基礎学力の定着になるのではと考えているのではないかと思われる。

この学校に入学させたいがために市内に引っ越す家族もいるらしい。市としては人口増加にもなるのではないかな。

牧之原市図書交流館「いこっと」

今回最後の視察施設に着いたと言うが目の前にあるのはホームセンターらしき建物「図書館はどこ」と思った建物が、目的の施設、牧之原市図書交流館「いこっと」でした。中に入っても図書館のイメージとはかけ離れた広ーい空間でした。間仕切りは無く、音楽が流れ、人の話し声や子どもの遊ぶ声も聞こえ、思っていた図書館とは全く違ったものでした。

カフェあり、シェアキッチン、ボルダリング、卓球スペースなど他にもいろいろありはじめに見た感じとは違って見え楽しく感じられました。

肝心の図書館機能としては、多くの蔵書があり、静かに勉強したい人のためには、奥に囲まれた空間があり、1人1人が、仕切られた勉強の邪魔にはならないような場所がありました。ここなら落ち着いて勉強できる空間だと思いました。

今回訪れた図書交流館は公民連携事業でミルキーウェイスクエアと名付けられ、このエリアで実現する将来像としてミルキーウェイスクエアを中心にエリアの内外を繋げ「用事を済ませるために訪れるエリア」から「日常の暮らしを楽しむエリア」に、「田舎での豊かな暮らしを生み出し、この町の魅力を発進するエリア」として地域外からも人を呼び込む拠点にしていく、とのことで公民連携による施設やサービスの組み合わせによる相乗効果でエリアの価値を上げ定住意欲を高める様子が伺えました。

今回訪れた施設は、結果としてどこも素晴らしくいい勉強になりました。食べず嫌いや変な先入観をもつこともいけないことを今更ながら学びました。